



宮里、速さ生かし7得点

浦添商業 佼成学園女子(東京) トを決める浦添商の宮里真帆

1対1で躍動

腰の痛みには耐えながら大会直前に腰を負傷し、会に臨んでいたサウスポールの宮里真帆が、決勝の舞台で躍動した。153センチの小柄な体でスピードを生かし、得意の1対1で勝負。スペースに飛び込んだり、フェイントをかけたりにして相手を置き去りにし、チーム最多の7得点を奪った。



県勢10年ぶりの準優勝を果たした浦添商業女子ハンドボール部

るときに追い込まれ、打た半々」と語る。される場面もあった」と堅い守備に脱帽した。優勝は逃したが「悔しい気持ちで、表に選ばれている。3月のやり切ったという気持ちで、全国選抜では、浦添が準優

みんな一つになって戦った

選手たたえる玉城監督

87年海邦国体少年女子V選手

「みんな一つになって戦つてくれた。胸を張って沖縄に帰ろう」と玉城(旧姓比嘉)の中で、玉城(旧姓比嘉)晴美監督は涙声で選手をたたえた。

具志川高3年だった1987年の海邦国体で、ハンドボール少年女子優勝の立役者だった。90年代は実業団のオムロンでエースに君臨し、リーグMVPも獲得。全日本のみならず、女子ハンド界の顔となったが、絶頂期の94年、「将来は沖繩の後輩を指導したい」と引退して大学に進み、教諭の道を選んだ。

徒手療法で終始サポート

「インターハイ県勢初の優勝が目の前だっただけに悔しいが残るが、よくやった。選手たちは、最高の親孝行をしてくれた。橋口明歩主将の意思改革から着手し、軽率なプレーやミスは厳しく指導した。「先生は

「アンターハイ県勢初の優勝が目の前だっただけに悔しいが残るが、よくやった。選手たちは、最高の親孝行をしてくれた。橋口明歩主将の意思改革から着手し、軽率なプレーやミスは厳しく指導した。「先生は

橋口広明さん

戦。疲れがたまっていた。本来の動きを取り戻せるようにとお願い、サポートしたと話す。全国制覇を目標に監督とコーチ、選手、父母が力を合わせ挑んだ大会だったと振り返る。「県大会優勝が難しかったチームを、全国2位にまで強くしてくれた監督とコーチに感謝している」と声を力を込めた。(下地広也)



試合中に指示を出す浦添商の玉城晴美監督 (小笠原大介東京通信員撮影)

浦添商業 佼成学園女子(東京) 後半、ジャンプシュートを狙う浦添商の我那覇葵(三重県津市・サオリナ) (下地広也撮影)



準決勝のハーフタイムに、娘の明歩主将の足のケアをする橋口広明さん